

☆放課後子ども教室☆～1年を振り返って～

今年、例年より早めに雪解けが進んでいるかと思えば大雪が降り、近づいたかと思えば遠くなる春の足音です。3月は次の年度への期待が膨らむ季節。6年生は卒業を間近に控え、1～5年生は次の学年への進級に向けて準備をする時期ですね。昨年4月に比べ、ぐっと身長が伸び、顔つきも少し大人びてきた子どもたちを前にすると、1年という短い月日の中にも成長を感じています。

今年度の放課後子ども教室の活動も、大きな事故やケガもなく、無事に終わることができました。参加してくれた子どもたちはもちろん、活動に対しご理解をいただき、子どもたちを送り出していただいた保護者の皆さん、活動にご協力をいただいた地域の皆さんに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。放課後子ども教室が始まって3年が経ち、子どもたちの間にも活動が定着してきたように感じています。一方で、「このような活動を行政が担うのは過保護すぎるのではないか」という声も活動が始まった当初から耳にしてきました。厚真の子どもたちと接する中で、良いことも悪いこともやってみたいという好奇心があり、ときにはケンカをしたり、失敗したりすることもあるけれど、素直で遊ぶことが好きという子どもたちの本質は、今も昔も変わらないように思います。しかし、今の子どもたちの遊び方として電子ゲームが大きな存在としてあり、ゲームの内容が友だちとの共通の話題であったり、コミュニケーションの道具となっていることは確かです。厚真で育った子どもたちが将来、自分の子ども時代を思い返したとき、これほど豊かな自然環境や生産現場が近くにあるにもかかわらず、ゲームで遊んだ思い出しかないということにはなってほしくありません。ゲームだけじゃなく友だちと一緒に外や体育館、学校林、近くの畑や空き地で遊んだという体験を少しでも多く残してあげたいと考えています。その経験がその後、子どもたちの心の糧として生きていくものだと思っています。それが放課後子ども教室の存在意義であり、役割なのではないかと考えています。私たちのチカラだけではできないことも、地域の資源（ヒト・モノ・想い）を共有し、得意分野を生かして一緒にやれば、できることはもっと増えていくはず。子どもたちが自分が育ったまちのことを、自分の体験をもとに、自分の言葉で語れる人となれるよう、学校や家庭、地域との情報共有を積極的に行いながら、活動を続けていきたいと思えます。次年度も引き続き放課後子ども教室をどうぞよろしくお願いたします。

